2011（平成23）年度
前期
事業報告書

2011年1月1日～2011年4月30日

（全4ヶ月）※

※会計期間変更に伴う。

認定NPO法人　アジア日本相互交流センター

INTERNATIONAL CHILDREN'S ACTION NETWORK

Not "for" the People, but 'with' the People

Ⅰ、危機的状況にある子どもたちと「ともに」おこなうプログラム

1、ジェネラルサントスの子どもたち

（1）事業概要

ミンダナオ島の南部に位置するジェネラルサントス市は、魚産物･農産物が豊富に収穫できますが、大農場や工場を持つ一握りの資本家への富の集中が顕著で、多くの人びとが最低限の生活状況の中で暮らしています。アイキャンは、そのような環境の中で子どもたちが継続して学校に通うことができるよう、通学のための経費や物品の提供を行うとともに、異なる宗教や民族性をもつ人々の相互理解を目的とした漫画教材を作成し、平和の促進を図りました。

（2）実施事務所

ミンダナオ第1事務所（ジェネラルサントス市）

（3）実績

1）学用品や通学経費等の提供

1月から4月末まで、54名の子どもたち（小学生1名、高校生50名、大学生3名）に文房具などの学用品を支給し、また通学を続けるために必要な費用を提供しました。そして3月、4月には、そのうちの12名の子どもたち（小学生1名、高校生10名、大学生1名）の卒業を見届けました。

2） 医療費補助

奨学生の1名が、下痢による脱水症状及びぜん息を患い、この治療経費を補助しました。

3）平和教育のための漫画教材の配布

異なる文化や民族性、宗教を持つ人たち同士の相互理解･平和教育を目的として4，000部作成した漫画教材を、ジェネラルサントス市の教材図書館に1，000部寄贈し、贈呈式を実施しました。その他の教材に関しても、地域の施設や学校･市庁舎などにも配布し、異なる文化を持つ住民同士の偏見や差別の解消が図られるように努めました。

4）異民族研修の実施

漫画平和教材を用いた異民族研修をジェネラルサントスに住む子どもたち48人とともに実施し、異なる背景を持つ子どもたち同士の理解促進を図りました。

2、紛争の影響を受けた子どもたち

（1）事業概要

ミンダナオ島北コタバト州ピキットの住民は、長年続いてきた武力紛争により、避難生活を繰り返してきました。アイキャンは、ピキット町南部に流れるプランギ川の周辺7集落（R7）で、2006年より小学校校舎の修復や新築を通した教育活動と、地域の平和活動を促進しています。今期は、校舎新築や、平和教育モジュール作りなどの活動を来期から始められるように、体制強化の準備を進めました。

（2）実施事務所

ミンダナオ第2事務所（キタパワン市）とマニラ事務所

（3）実績

1）事業実施準備と体制強化

2月に人員拡充のため面接を行い、専門性をもつ人材の確保を進めました。3月には、NGO連携無償資金協力のスキームに申請するにあたり、大使館職員による事前調査が行われ、マニラ事務所職員も事業地に随行しました。4月から新規職員を一人雇用したのに加え、これまで事業の拠点をキタパワン市に置いていましたが、さらに多くのステイクホルダーの集まっているコタバト市へ事務所を移すことに決め、物件探し、警備会社によるセキュリティ審査、賃貸契約などを行いました。さらに、M7のスルタンメモリアル中学校における校舎新築･修繕の設計デザインについて検討を重ね、イスラム文化に合わせた設計図を完成させました。

同時に教育省、ピキット市、BDA（バンサモロ開発局）、日本大使館などの関係諸機関と事業についての話し合いを実施しました。

2）教材提供の準備

新学期（6月）に向けて必要な教材を提供するため、学校側と話し合いを持ち、ニーズを把握しました。

3、路上の子どもたち

（1）事業概要

フィリピンでは、約25万人の子どもたちが様々な理由で路上での生活を余儀なくされています。子どもたちは物乞いや、物売り、廃品回収業、性産業等により生計を立て、様々な危険のなか暮しています。アイキャンは、マニラ首都圏の6ヶ所（ケソン市フィルコア、アグハム通り、ミンダナオ通り、ムニョス、ホリースピリッツとマニラ市ブルメントリット）にて教育と養育の活動を実施しました。

（2）実施事務所

マニラ事務所（一部フィリピンのNGO「サンマルティンデポーレスの家と宝」と提携）

（3）実績

1）路上教育活動・保健教育・医療活動

子どもたち約200名と路上教育を実施しました。各事業地で、月に1から2回、計42回実施し、子どもの権利、環境教育などをテーマに学びました。また、各事業地において、保健教育・医療活動を月に1回実施しました。

2）炊き出し

各活動に参加した子どもたち約200名に、栄養改善を目的とした炊き出しを実施しました。

3）路上の青年リーダー（JUST WORKER）の育成

子どもたち約200名のリーダー的存在である30名

の卒業式を終えたあと、最後の奨学生1名に対して今後

4）職業訓練

パン作り職業訓練を計19回行いました。ケソン市のアグハム通り、ホリースピリッツ、フィルコアの青年約15名が毎回参加しました。

5）学校経費の提供

「子どもの家」に暮らす元路上にいた高校生4人に対し学校諸費や養育にかかる費用を提供しました。

4、先住民族ドゥマガットの子どもたち

（1）事業概要

マニラ首都圏の東、リサール州アンティポロ市にあるサンイシロ村には、先住民族ドゥマガット族の人々が多く住んでいます。村の人々は主に焼畑や稲作などの農業で生計を立てていますが、収入が不安定になりがちであったため、子どもたちも働き手として駆り出され、学校に通い続けることが困難な状況にありました。アイキャンでは、1999年から子どもたちの学用品や学費の提供を開始し、地域住民とともに農業研修や植林活動などを行ってきました。10年以上に渡る事業を通して、奨学金の制度が村のすべての家庭に行きわたり、生活の改善がみられたため、本事業は今期にて終了となります。

（2）実施事務所

マニラ事務所

（3）実績

1）卒業式出席

最後の奨学生1名（高校生）の卒業式に参加できなくなってしまった両親の代わりに、アイキャンスタッフ2名が4月1日の卒業式典に参列し、奨学生の卒業を地域の人々と一緒に祝いました。

2） 聞き取り調査

4月の卒業式を終えた後、最後の奨学生1名に対して今後の進路や家庭の状況に関して聞き取りを行いました。

3）モニタリング

アイキャンが提供する奨学金が村の全世帯に行き渡り、地域内の課題解決力も向上したため、当初の予定通り、2011年4月の最後の1名の奨学生の卒業をもって本事業を終了しました。アイキャンとしての事業は2011年で終了しますが、今後も、ドゥマガットの子どもたち・地域の住民自らが自分たちの力によってよりよい地域を作り上げていくことができるよう、見守り続けて行きます。

5、先住民族ブラアンの子どもたち

（1） 事業概要

ミンダナオ島ジェネラルサントス郊外の村に住む先住民族ブラアンの中には、不法伐採や入植者による土地の収奪により自給自足の生活が成り立たなくなり、十分な食事を取れない家族も多くいます。子どもたちの多くは空腹により通学意欲を失い、卒業できる子は一握りにすぎません。アイキャンは、そのような子どもたちに、通学のための経費や物品の提供、給食の支給を行いました。

（2） 実施事務所

ミンダナオ第一事務所（ジェネラルサントス市）

（3） 実績

1）地域の小学校6校で525食の学校給食を提供し、約800人の子どもたちの栄養改善活動を実施しました。

2）上記小学校において、ヤギや水牛などの家畜飼育やトウモロコシの栽培を行いました。これらの収入により、アイキャンが提供する給食に加えて、学校経費でも給食を実施することができました。

3）浜松南ライオンズクラブとの協働により、マリガヤ小学校に水道を引き、その引き渡し式を行いました。これによりマリガヤ地区全体、さらに水源からマリガヤまでの地区にも水が行き渡るようになり、これまで遠くから水を運ぶことが負担になっていた村人たちに、手軽に安全な水を提供できるようになりました。

3）上記小学校において子どもたちと一緒に植林活動を実施し、30本の有機バナナの苗を植えました。

4）小学校3校での壁面改修やベンチの設置を行い、教育環境の向上のための活動を行いました。

5）母親たちの意識向上、生計向上のために、5回の訓練を実施しました。（リーダーシップ研修、組織管理研修、地域の伝統薬や指圧療法を活用した技術訓練、地域の薬草を使用したハーブ薬作りの訓練など）

6、ごみ処分場周辺に住む子どもたち

（1） 事業概要

マニラ首都圏ケソン市郊外にあるパヤタス地区には、フィリピン最大のごみ処分場があり、周辺住民は大きな健康被害を受けています。アイキャンはこの地域で1997年より、生計向上と保健環境向上に取り組み、協同組合を育成してきました。2010年には主な事業をこの協同組合PICOへ移行しました。今期、協同組合PICO（ピコ）が診療、預り保育などの活動を実施し、アイキャンはそのモニタリングを行いました。

（2） 実施事務所

協同組合PICOとマニラ事務局が協働

（3） 実績

1） 医療活動

毎週2回（火曜日、木曜日）、延べ800名に計32回の診療を実施しました。

2） 青少年活動

4歳から17歳の子どもたち、青年たち延べ320名とともに週1度、計16回の青少年活動を行いました。この活動の中で、子どもたちは、基本的な算数、歴史、タガログ語、英語等を学びました。

3） 預かり保育

4歳から6歳の子どもたち向けに毎週5日、計80回の預かり保育を実施しました。2人の教師が毎朝2クラスを担当しました。

4） 役員会議

7名の役員が毎月1回、計4回の役員会議を開きました。実施中の活動の評価や組合員の募集について話し合いました。

5） PICO（ピコ）定例会議の開催

全組合員を対象に月に1度、計4回の定例会議が開かれ、延べ80名の組合員が参加しました。役員会議で決まった決定事項や重要事項が組合員に共有されました。

7、災害の影響を受けた子どもたち

（1）事業概要

フィリピンは世界の中でも有数の災害被害国です。2009年9月には、台風オンドイによる大規模洪水災害が発生しました。アイキャンはその被災に対し、緊急対策のみならず中長期的な復興を支えるべく活動してきました。

2010年からはオンドイ被災者たちが集まる再定住地（アンティポロ市スミラン地区）で、デイケア施設整備、保健教育、生計向上のための技術訓練活動を行いました。2011年1月以降は、事業終了を見越して、継続的訓練の実施と住民たちとともに組織運営研修を実施しました。

一方、3月11日に発生した東日本大震災に対して、関係者の安否確認と被災状況の把握に努めるとともに、宮城県において救援物資の運搬、泥出しの活動を行いました。また今後の中期的な計画を立てました。

（2）実施事務所

マニラ事務局

（3）実績

1）デイケア（保育所）活動

前年度12月から改修をはじめたデイケアが3月末で完成しました。70名の子どもたちの学習環境を整え、新学期へ向けて開校できるよう行政機関と調整を行いました。

2）保健リーダーの育成

前年度に育成した保健リーダーたちのフォローアップ研修を4回実施し、延べ32名が参加しました。

3）あみぐるみ技術訓練

訓練参加者達の製品作成能力を高めるよう指導しつつ、4回の組織運営の研修を延べ32名とともに実施しました。その結果、副収入獲得の基盤が整いつつあります。

4） 安否確認と被災状況の把握

東日本大震災に対して、関係者の安否確認と被災状況の把握に努めるとともに、救援物資の運搬、泥出しの活動を行いました。また今後の中期的な計画を立てました。

8、外国にルーツを持つ子どもたち

（1）事業概要

日本の首都圏のみならず各地方都市でも、日本以外にルーツを持つ人々が生活をはじめ、今では日本社会の日常生活に溶け込んで暮らすことが一般化してきました。一方、その生活の中で、教育や家庭環境、アイデンティティ等様々な課題を抱えていることが分かってきています。

アイキャンは現在までに培ってきた経験を活かし、外国にルーツを持つ子どもたちの教育環境の改善をはかるとともに、家族の地域社会への参加を促すために、翻訳サービスや勉強会等を行っています。

（2）実施事務所

日本事務局

（3）実績

1） 無料翻訳サービス

今年度は118名のボランティア（2011年1月からの新規登録者は10名）により、50件の翻訳作業を実施しました。主な依頼内容は、自治体からの予防接種のお知らせ、学校関係者からの学級だより、卒業式・入学式の案内、外国籍児童の入学手続き、また、役所への申請書などの依頼に対応してきました。

4月以降は、ボランティアコーディネーターを中心とした新体制へ移行する準備のため、一次休止しています。6月の中頃の再開をめどに準備を進めています。

2） 報告書作成など啓発活動

『平成22年度外国にルーツを持つ子どもの活動記録』を発行し、外国にルーツを持つ子どもたちに対する専門的な見地からの分析に加え、翻訳サービスの取り組みを通して感じたこと、新しい発見などを多くの人たちに共有することができました。

9、子どもの参加を促進する事業

2011年1月～4月フィリピンでの子どもの参加を促進する活動は実施せず。

Ⅱ、「できること」を増やすプログラム

1、国際理解教育（開発教育）事業

（1） 事業概要

今年度も引き続き、フィリピン各地で行っている幅広い事業経験を活かし、これまで社会の中心に響くことのなかった「危機的状況に置かれている子どもたち」の「こえ」を、より多くの人々と共有することを目的に国際理解教育を実施してきました。子どもたちの夢と課題の解決に向かって、日本の多くの人たちが「ともに」取り組める社会の創造と人材育成に取り組んでいます。

（2） 実施事務所

日本事務局、マニラ事務所

（3） 実績

1） 学校での授業

きふね幼稚園、高蔵高校公開講座、（以下、中部電力グループECOポイント活動として）南陽高校、高見小学校、千種高校

＜受講者からのこえ＞

・フィリピンは進んだ国だと思っていましたが、格差の現状を知らなかったので、とても驚きました（南陽高校）。

・ゴミ山をなくしてしまうと、生きていくことができなくなる人がいるなんて、何度聞いても信じられませんでした。みんなが協力して解決できるといいです。（千種高校）。

2） イベントなどでのワークショップ

YOGA HEART NAGOYA 2011

3） 事務所訪問受け入れ

名古屋大学

4） 海外研修・事業地訪問

青山学院大学（15名）、1日事業地体験（8名）

5） 絵手紙を通した日本とフィリピンの交流会

絵手紙展示会をイオン大高ショッピングモールにて実施（1月13日～1月16日）

2、スタディツアー・研修事業

2011年1月～4月の間に、実施せず。

3、フェアトレード販売事業

（1） 事業概要

2010年度から引き続き、「お買いもの」を通じて社会を変える重要な手段として、フェアトレードの販売を行いました。具体的には、生産・購入過程における1）生産者のエンパワメント、2）生産者の収入向上、そして販売過程において3）社会問題に対するメッセージ性と4）収益性、5）「できること（ICAN）」の実践としての場の提供を目指しました。

（2） 実施事務所

日本事務局、マニラ事務所

（3） 実績

アイキャンの開発事業の中から生まれた生産者団体SPNPやPICOのみならず、他のグループから製品の仕入れを行い、日本とフィリピンでイベントや学園祭、事務所、ホームページ、店舗で販売しました。これらの販売を通じ、多くの方々に社会問題の深刻さや公正な貿易の必要性、そしてアイキャンの理念や活動を知って頂く機会を提供できました。またアドバイザーとして、SPNPとはこれまで以上に品質の良い商品の開発や生産を行うための協議を実施しました。

1） 委託店 21店舗

ネイチャーガーデン、窯のひろば、ぐらする一つ、Café Marronnier、マジックマーマ、茶房よしやま、土川商店、オゾン、ぎたんじゃり、チャパカ、ドリーム、名古屋YMCA、くれよんBOX、バオバブ、kogomi、まなかまな、風“s、睦和（むーわ）、JICA広尾カフェフロンティア、フェアビーンズ、テディベアエコビレッジ

2） イベント等の販売

ワンワールドフェスティバル（大阪）、フェアトレードマーケット（なごや地球ひろば）、想念寺彼岸まつり、想念寺はなまつり、 東別院御坊桜まつり、YOGA HEART NAGOYA 2011（ハートでつながるヨガ）

4、フェアトレード啓発事業

（1） 事業概要

「お買い物」を通じて、平和な社会の構築を目指すフェアトレード（公正な貿易）運動の広がりは、東海地域において依然として限られています。その為、市民は「お買いもの」によって「できること」に参加できていないのみならず、「南」の生産者の生活の向上にも限界があります。そこで、地域のフェアトレード関係者や有志が一丸となって、東海地域のフェアトレードを取り巻く環境を変えていくことができるよう、フェアトレードの啓発事業を開催しました。

（2） 実施事務所

日本事務局

（3） 実績

1）「東海フェアトレードマップ」の配布

フェアトレードのイベントや関心層に対し、東海地域のフェアトレードの94のお店が一目で分かる「東海フェアトレードマップ」を配付しました。東海地域のフェアトレードの認知度を高め、身近なお店に足を運んでいただくよう心がけました。

2） 東海フェアトレードポータルサイト作成

東海地域のフェアトレード情報満載のポータルサイトの運営を行い、インターネットで東海地域のお店の情報を提供しました。

3）「東海フェアトレードフォーラム」の延期

3月19日（土）に東海フェアトレードフォーラムを開催すべく、準備を進めてきましたが、3月11日（金）に起こった東日本大震災によって延期となりました。2011年の9月～11月頃に実施をする予定です。

5、外務省NGO相談員（外務省委託事業）

（1） 事業概要

外務省NGO相談員業務は、日本のNGOの組織強化や専門性の向上を通して、日本のNGOの事業実施能力を高めること、また、事業実施面における政府とNGOの連携を促進することを目的として実施されている外務省からの委託事業です。NGOに関する一般市民からの幅広い相談に対し、アイキャンの経験と技術をもって、お答えしています。

アイキャンは今期、北陸・東海の10県を担当する「NGO相談員」を（特活）名古屋NGOセンターとともに務めました。

（2） 実施事務所

日本事務局

（3） 実績

1） 相談業務　計259件

1月106件、2月69件、3月84件

2） 出張業務　計2件

1月敦賀市立粟野小学校（福井）、2月ワン・ワールド・フェスティバル（大阪）

3） 広報業務

多くの方に相談員制度を知っていただくように、チラシの配布とインターネットを通じて広報を行いました。

―アイキャンの相談業務PR文

「一人ひとりのできること（ICAN）」を大切にした海外開発事業やフェアトレード、国際理解教育，多文化共生，スタディツアーの長年の実施経験より，中部・北陸地域のNGOや学生、教育機関や行政、企業（CSR）、グループ、個人が取り組む際の幅広い相談に乗ります。

6、外務省NGOインターンプログラム

（1） 事業概要

外務省NGOインターンとは、将来、国際協力分野での就業を目指す人材の受入れと育成を外務省がNGOに委託することによって、NGO活動に携わる人材の拡充、国際協力の重層化を図ることを目的とした制度です。アイキャンは外務省委託団体としてインターン1名を受入れ、開発事業を住民とともに実施するプロジェクトマネージャーを育てるべく、フィリピン事業地での実務経験を通した育成を行いました。

（2） 実施事務所

マニラ事務所

（3） 実績

1） マニラ事務所で計65日間の研修

1月14日間、2月16日間、3月16日間、4月19日間

2） インターン業務内容

主にJICA草の根技術協力事業ごみ処分場周辺地区パヤタスに関わる開発事業の補佐、会計業務遂行、アイキャン一日事業地体験の運営、募集広報、フェアトレード生産者団体との調整業務、ボランティア調整業務、東日本大震災寄付金フィリピン担当などの研修を行いました。

3） 習得した知識、能力、経験

日本のNGOの歴史/特徴の理解、アイキャン日本事務所の活動全般理解、フィリピンの社会問題や開発の歴史、開発事業のサイクルやキーコンセプトの理解、フィリピンでの開発事業従事経験、危機管理能力、リスク管理能力、異文化理解能力、語学力（タガログ語）、アイキャンの活動理念の整理などの知識、能力を高めました。

8、小規模委託事業

NPOの会計に関わるアンケートに協力しました。

■ その他の活動に係る事業

1月～4月の間に実施せず。

7、「ICAN（私のできること）」を増やす事業

（1） 事業概要

世界中にある様々な課題を解決するためには市民1人1人の行動が必要です。アイキャンは取り組みやすい身近な方法を提案するとともに、「ともに」頑張る仲間を増やし、社会の中で「できること」を増やしてきました。

（2） 実施事務所

日本事務局

（3） 全国での活動

26，879枚の書き損じハガキと、多くの未使用切手・テレフォンカード・商品券・外国紙幣等を収集しました。また古本収集活動では、累計22名の方がダンボール41箱分の古本・CD・DVD等を寄付してくださいました。その結果、子どもたちの教育寄付が約94万円分集まりました。

（4） 名古屋での活動

1） 街頭募金

ボランティアが1月～4月まで計3回の街頭募金を行いました。活動紹介のチラシも配布し、計314人の方が寄付をしてくださり、約46，000円を集めることができました。

2） 交流会・勉強会の開催

月1回計4回、ボランティアグループの交流会を開催しました。またアイキャンの活動、フェアトレード、多文化共生等をテーマに勉強会も行いました。

3） YOGA HEART NAGOYAの開催

YOGA HEART NAGOYA 2011実行委員会とともにチャリティーヨガイベントを行いました。ヨガレッスンとアイキャンの講演を合わせた報告会を行い、東北震災被災者への活動とフィリピンの子どもたちの活動費として156，000円の寄付と書き損じハガキが集まりました。

（5） 大阪での活動

大阪のボランティアグループ「アイキャン大阪」が、ハガキ収集活動の呼びかけやフェアトレードド販売を行いました。